

# 「ラテンアメリカ政治経済の かんどころ」の舞台裏

母良田政秀

ジェトロ・アジア経済研究所（以下、アジ研）は2017年7～11月にかけて、神田外語大学イベロアメリカ言語学科と共催で学生・市民向けシリーズ講座を開催している。講座の企画・運営等を手がけた筆者が言うのも手前味噌ではあるが、今回の講座は、アジ研にとって挑戦的な取り組みであると自負している。では、何に、どのようにして取り組んだのか。楽屋話を少々させていただこうと思う。

## ●これまでと違ったセミナーができないか

筆者の所属する部署では、主に一般向けセミナーの企画・運営を行っており、2016年度は69件の開催実績がある。会場はアジ研、地方、海外など多岐にわたるが、全体の約6割をジェトロ本部（港区赤坂）で実施してきた。これはご参加いただくお客様の利便性や運営にかかるコストなどを考慮した結果である。

セミナーの告知段階では、まずアジ研ウェブサイト「イベント・セミナー情報」に案内が掲載され、ほぼ同時にアジ研Twitterにもお知らせがツイートされる。ただ、実はこの段階でのお申込みはさほど多くない。お申込みが集中するのは、セミナーのご案内（メール、一部FAX）を一斉送信した直後のタイミングである。玉石混交のウェブサイトが氾濫し、チェックすべき情報源も数多い今日にあっては、情報の入手の仕方が「探しに行く」というものから「自動的に集まってくるような仕組みを整える」というものに変わりつつあるのかもしれない。

閑話休題。前述の会場選定や告知の結果、コンサルタントや貿易業といったビジネスパーソン層を中心にセミナーにご参加いただき、これまで一定の評価をいただいていた。一方、回を重ねるほどに、筆者の中で「他のバリエーションがあっても良いのではないか」という思いが日増しに膨らんできたのも事実である。

そもそも、アジ研は何のために存在するのだろうか。ジェトロの設立根拠である独立行政法人日本貿易振興機構法（平成14年12月13日法律第172号）および、

1998年のジェトロとの統合までアジ研の設立根拠となっていたアジア経済研究所法（昭和35年4月1日法律第51号）においては、アジ研の設立目的が「アジア地域等の経済及びこれに関連する諸事情について基礎的かつ総合的な調査研究を行ない、並びにその成果を普及し、もつてこれらの地域との貿易の拡大及び経済協力の促進に寄与することを目的とする」と定められている。この目的に照らして考えれば、ビジネスパーソンを主な対象として諸外国の経済情報を提供し、彼らの情報収集コストを削減することには合理性があろう。

しかし、対象となりえるのは本当にビジネスパーソンだけなのだろうか。「アジア地域『等』」と書かれているとおり、アジ研に在籍する約150名の研究者の中には、アジアでなく中東、アフリカ、ラテンアメリカ、あるいはより抽象的・理論的な分野を専門としている者もいる。また、「経済及び『これに関連する諸事情』について『基礎的かつ総合的な』調査研究」とあるように、たとえ同じアジア地域の研究者であったとしても、その専門分野は十人十色だ。つまり、ビジネスニーズが相対的には高くない地域や分野に取り組んでいる研究者も少なくない。こうした研究者が蓄積してきた知的資産を社会に還元する機会にはできないか。それも、学会報告のような参加対象を限定したのではなく、誰でも参加できる開かれた形で、なおかつ満足いただけるようなセミナーの舞台がないものか。こうしたことを考えていた際にひらめいたのが「ラテンアメリカ政治経済のかんどころ」というアイデアだった。

## ●研究者が長年にわたり蓄積してきた「かんどころ」を解説

一般論ではあるが、地理的に遠く離れたラテンアメリカ諸国に向けられる関心の度合いは、近隣アジア諸国へのそれよりも低いと言わざるを得ない。たとえば、新聞の国際面などを見ても、アジアの動向が頻繁に取り上げられているのに対して、ラテンアメリカの記事を目にすることは少ない。たまにみかけるとすれ

表1 今後の開講予定

対象国	開催日	講師
【第4回】 アルゼンチン	2017年10月6日(金曜)	菊池啓一(地域研究センター ラテンアメリカ研究グループ)・母良田政秀(研究支援部 成果普及課)
【第5回】 チリ	2017年10月13日(金曜)	北野浩一(研究企画部 研究企画課長)
【第6回】 キューバ	2017年10月27日(金曜)	山岡加奈子(地域研究センター ラテンアメリカ研究グループ長代理)
【第7回】 ペルー	2017年11月3日(金曜、祝日)	清水達也(地域研究センター 主任調査研究員)
【第8回】 ブラジル	2017年11月10日(金曜)	舩方周一郎(神田外語大学 外国語学部イベロアメリカ言語学科(ブラジル・ポルトガル語専攻)専任講師)

(注) 1) いずれも開催時間は16:30~18:00、会場は神田外語大学 8号館116教室(千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1)。

2) 要事前申込み。お申込みはアジア研ウェブサイト内「イベント・セミナー情報」より。

(出所) 筆者作成。

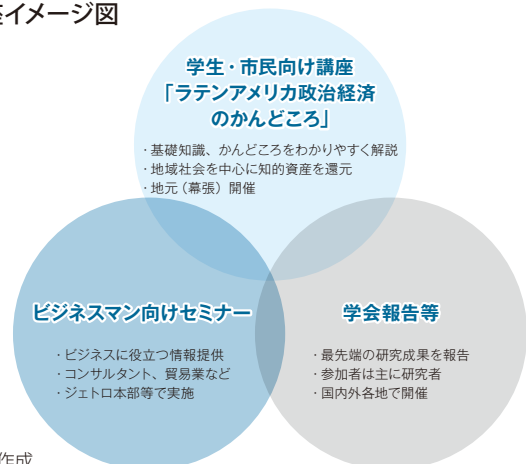
ば、大規模な政変や天災が断片的に報道される程度である。加えて、ラテンアメリカ諸国にあっては、日本的な常識からは信じられないような出来事が生じることもしばしばある。このため、情報をどう咀嚼・解釈すればよいのか、いわゆる「かんどころ」を養いづらい状況にある。

他方、アジア研には8名のラテンアメリカ研究者がおり、彼らが長年にわたりラテンアメリカを研究対象としてみつめ、培ってきた知的資産には膨大なものがある。そこで、この知的資産からラテンアメリカを読み解くための「かんどころ」を抽出し解説することが、長期的にみれば貿易や経済協力の一層の発展に貢献できるのではないかと考えたわけである。

こうした話を、アジア研からほど近くにあり、イベロアメリカ言語学科<sup>1)</sup>を擁する神田外語大学に提案したところ、共催をご快諾いただいた。調整の結果、対象国はラテンアメリカ8カ国、講師はアジア研から7名、神田外語大学から2名が登壇することになった。加えて、シリーズ全8回のうち、第3回、第8回には、アジア研図書館の活用法を説明することで、参加者がさらに学習を深めるための手助けとなることを意図している。

また、「地域社会への知的貢献」というコンセプトのもと、告知は地元中心に行うことにした。アジア研ウエ

図1 講座イメージ図



(出所) 筆者作成。

ブサイト上に講座のお知らせは掲載したものの、集客効果の高いメールでの案内はあえて封印。その代わりに、千葉市内を中心に大学、高校、図書館、公民館にポスター掲

載の依頼をするとともに、地元メディアにも広報協力を依頼し、草の根の告知活動を行った。神田外語大学側では、学内でのポスター掲示やイベロアメリカ言語学科内での呼びかけのみならず、地域メディア等に向けたプレスリリースを行った。それでも、講座開催日が近づくにつれて、伸び悩む申込み数に焦りと後悔の気持ちが湧かないわけではなかったが、結果的にはセミナーを運営するに差し支えないだけのお申込みをいただくことができた。

講座第1回では、アジア研ラテンアメリカ研究グループの坂口安紀グループ長が、「ラテンアメリカ概論、ベネズエラ」をテーマに講義した。ラテンアメリカ諸国は共通した歴史的、政治経済的、文化的背景を持つ。各国の事情に通底する背景を理解するために、前半ではラテンアメリカ諸国に共通する政治経済上の特色などを紹介した。後半では各論として、ベネズエラで現在生じている政治・経済・社会的な危機とそれらの背景について解説した。参加者からは「予備知識はなかったが、わかりやすい解説だった」、「現地で何に関心が集まっているか知ることができた」、「他の地域をテーマにしたものも含め、このような講座を定期的に開催してほしい」といった嬉しい感想が寄せられている。

本誌発刊日以降も講座は続く。ぜひご参加いただき、こうした裏話も頭の片隅に置きつつお楽しみいただければ、セミナー屋としては望外の喜びである。

(ほろた まさひで/アジア経済研究所 研究支援部 成果普及課)

《注》

(1) イベロアメリカはスペインとポルトガルの植民地だった米州の国々全体を指す用語であり、19世紀後半から使われるようになった。http://www.rieti.go.jp/users/tanaka-ayumu/serial/003.html